（表紙）

宝暦十四甲申正月

朝鮮人大磯旅館宿割出役

渡邊半十郎手代
内山伴七

＊１７６４年　６月には明和と改元。

p1

○印泊　△印昼休

壱岐国
勝本　未十三日　着船　松浦肥前守

筑前
藍嶋　松平筑前守

長州
赤間関　未十二月廿七日
午下刻着キ候　松平大膳太夫

同
上ノ関　正月三日　着船　同　＊１７６４年

芸州
蒲苅（ガマガリ）正月七日
着船　松平安芸守

備後国　申正月十一日着　中川修理太夫
鞆　掛斐十太夫
川崎平右衛門

p2

播州
牛窓　正月十三日着船　松平大炊頭

播州
室津　正月十四日着船　酒井雅樂頭

摂州
兵庫　正月十九日着　風祭甚三郎
竹垣庄蔵

同　内藤十右衛門

○　大坂　申正月廿日着子上刻　飯塚伊兵衛
同廿六日出立　岡部内膳正

△　枚方　申正月廿七日
卯中刻着　平岡彦兵衛

○淀　稲葉丹後守

○京都　正月廿八日本願寺着　所司代
阿部伊予守
本多隠岐守
小堀数馬
角倉与市

△大津　青山下野守
石原清左衛門

○守山　石川主殿頭
多羅尾四郎右衛門

△八幡　加藤佐渡守
多羅尾四郎右衛門
志村新左衛門

p3

○彦根　井伊掃部頭

△今須

○大坂　戸田采女正

△起　成瀬隼人正

○名護屋　同

△鳴海　同

○岡崎　松平周防守
布施弥市郎
浅井作右衛門

△赤坂　稲垣対馬守
鵜飼左十郎

○吉田　松平伊豆守
吉田増之助
野田弥市兵衛

△新井　松平和泉守
大野佐左衛門

○浜松　井上大和守
今井平三郎
万年七郎左衛門

△見附　三浦志摩守
山本平八郎

p4

○掛川　太田摂津守

宮村弾左衛門
大草太郎左衛門

△金谷
太田摂津守
岩出伊右衛門

○藤枝
本多伯耆守
藤本甚介
稲垣籐左衛門

△府中
内藤丹波守
会田伊右衛門

○江尻
鍋嶋紀伊守
久保平三郎
池田喜八郎

△吉原
京極栄吉
富士川船橋
小林□四郎

○三嶋
松平左兵衛督
江川太郎左衛門
遠藤□右衛門

△箱根
大久保大蔵少輔
川田玄蕃

○小田原
大久保大蔵小弼

p5

△大磯
脇坂淡路守
酒匂川土橋
渡部半十郎
馬入川船橋

○藤沢
西尾主水正
岩松直右衛門
前沢籐十郎

△神奈川
溝口主膳正
伊奈半左衛門

○品川
伊東豊後守
伊奈半左衛門

江戸宿寺
加藤遠江守
毛利能登守

辻　源五郎
吉田久左衛門
小田切新五郎
青山市左衛門

御馳走方　**三拾六人**
御賄方御代官　**四拾壱人**

p6

旅館宿割

三使
上々官三　**宿**　才三郎
護衛
小童
但し畳数弐百三拾三畳
内　百三十四畳　住居

上判事　三員
製述官　壱員
良醫
次上判事　**宿**　市右衛門
写字官
書記
押物判事

画員
醫員
次官
但し畳百九拾弐畳
内　八拾畳住居

軍官　**宿**　与左衛門
但し畳八拾七畳
内　弐拾四畳　住居

中官四拾五人　善左衛門
但し八拾弐畳
内　六拾四畳　住居

p7

中官五拾人　四郎右衛門
但し八十八畳半
内五十六畳住居

中官三拾三人　安右衛門
但し六十四畳

内四十三畳住居

下官三拾人　藤兵衛
但し四十畳
内三拾六畳住居

下官三拾五人　七郎兵衛
但し四十八畳
内四十四畳住居

下官三拾五人　半兵衛
但し四十弐畳半
内三十七畳　住居

下官弐拾七人　十郎右衛門
但し四十弐畳不残住居

下官四十人　勘兵衛
但し五十五畳
内四十八畳　住居

膽長老下宿　甚左衛門
平左衛門
但し七十畳
内五十畳住居

芳長老　五左衛門
但し五拾弐畳半
内三十畳　住居

p8

下宿　又右衛門
通詞拾六人　小兵衛
下三拾弐人
但し三十八畳不残住居

通詞拾四人　次右衛門
下廿八人
但し四十畳不残住居

通詞拾四人　小左衛門
下廿八人
但し四十壱畳不残住居

「貼紙三行」
右ハ相州大磯宿朝鮮人旅館
書面之通御座候　以上

十一月　渡邉半十郎

＊右相州大磯宿朝鮮人旅館
書面之通ニ御座候
〆三百六十五員
内次官　弐人
中官廿七人
下官□五員　已上百拾四人
大阪ニ残居　以上

（右＊部分に貼紙が被る。）
「貼紙」太字
右官人附宗対馬守様
ゟ之諸役人附覚
宗対馬守内
信使奉行　平田将監
裁判役　平田所左衛門
吉田橘左衛門
下行奉行　津江左近右衛門
平田隼之助

p9

＊前記貼紙のみ。

p10

手代
清原助右衛門
船橋忠右衛門
古川文蔵
大浦太左衛門
吉田吉右衛門
通詞下知役　佐々木笹右衛門
田原　太内
陶山重左衛門
内野鉄右衛門
扇善吉
八木茂吉
神宮吉蔵
下行方通詞　手束栄助
小田助三郎
三使官人通詞共
〆拾六軒

p11

大磯宿脇坂淡路守

御馳走方御役割

三使宿　小嶋才三郎
家老　日永伊織
年寄　村尾庄右衛門
側用人　武久太右衛門
留守居　賀集右衛門
同添役　岡田善太夫

p12

目付　関口十郎左衛門
儒者　藤江軍治
　　日永左膳
番士　山岡彦兵衛
　　溝口東馬
祐筆　片山喜六
書翰與裁判　股野才助
　　田中磯八
本道　中井伯玄
外科　山邊良川
茶道　申野期山
書留役　唐沢左衛
　　福邊金蔵
坊主　桜井六斎
　　外内久悦
上判事
製述官　宿　尾上　市右衛門
上官
次官　村尾傳太
　　岡田源左衛門
　　三田源三郎

p13

橋本利斎
上官宿　宿　大菱屋　与左衛門
　　山本右源治
　　出渕専右衛門
　　亀田久八
　　伊東呼参
中官宿　宿　大笹屋　善左衛門
　　田付傳治
中官　宿　宮代　安右衛門
　　塚本勘治
　　宮村団四郎
中官　宿　藤屋　四郎右衛門
　　大橋左源治
　　栗林扶右衛門
下官　宿　丸屋　藤兵衛衛
　　高見兵七
　　福邊伴蔵

p14

下官　宿　万年屋　七郎兵衛
　　沖田九郎治
　　小山茂助
下官　宿　稲屋　半衛
　　山本弥左衛門
　　石原茂市
下官　宿　嶋屋　太郎右衛門
　　栗村八十八
　　小寺夘左衛門
下官　宿　柳屋　勘兵衛
　　竹嶋佐助
　　小寺唯七
通詞　宿　紀伊国屋　小兵衛
　　宮崎元右衛門
　　外　壱人
通詞　宿　布袋屋　次右衛門
　　是川十左衛門
　　今井磯七

p15

通詞　宿　車屋小左衛門
　　川西藤介
　　杉原利平治
膽
長老　宿　山本屋　甚左衛門
　　村田久治郎
　　近藤長八

中西清介
新宮可遣
芳
長老　宿　竹屋　五左衛門
日永久米治
横田久治
小西丈七
松本林哲
合　五拾九人

p16

朝鮮人員数覚

正使
副使　是を三使共又ハ信使共云
従事
上々官　三員（崔知事、李同知、玄同知）
上判事　三員
製述官　壱員
上官　三拾弐人
次官　拾壱人
内理馬壱人先達テ着
中官　百四拾三人
下官　百六拾八人
内辛馬夫壱人先達テ着
合　三百六拾四人
是ハ江戸参向之分
外
次官　弐人
中官　廿八人
下官　八拾五人
是ハ大坂船場残居候分
通詞　四拾四人
小者　八拾八人

p17

相州大磯宿朝鮮人来艘
昼休旅館官人長老
通詞宿江相詰候手代下役
足軽人数割姓名書
一、三使　宿　小嶋　才三郎
手代　玉木嘉内
濱名□七

下役　小林栄蔵
熊沢平左衛門
山本勝右衛門

p18

一、上判事
製述官　宿　尾上　市右衛門
上官
次官　手代
小沢高蔵
塚本籐左衛門
下役　笹尾金蔵
小沢孫八
一、軍官　宿　大菱屋　与左衛門
手代　市川郡兵衛
下役　黒崎八郎兵衛
入山教右衛門
一、中官　宿　大笹屋　善左衛門
手代
棚橋外市郎
下役　黒崎八郎兵衛
福井六右衛門
一、中官　宿　宮代屋　安右衛門
手代　栗林政蔵
下役　片倉文治郎
桃井与左衛門

p19

一、中官　籐屋　四郎右衛門
手代　磯野常七
下役　嶋村初右衛門
中川伊兵衛
一、下官　宿　丸屋　藤兵衛
万年屋　七郎兵衛
柳屋　勘兵衛
嶋屋　十郎右衛門
稲屋　半兵衛
手代
金差権蔵
坂東多七
下役　小嶋源左衛門
木村彦右衛門
木村利兵衛

粕谷清次郎
熊澤与右衛門
一、通詞　宿　車屋　小左衛門
手代　内山伴七
下役　青木善八
加藤甚五兵衛
p20
一、通詞　宿　紀伊国屋　小兵衛
手代　黒沼秀蔵
下役　後藤武左衛門
加藤甚右衛門
一、通詞　宿　布袋屋　治右衛門
手代　加藤五左衛門
下役　熊澤嘉七
嶋村菅右衛門
天龍寺
芳
一、長老　宿　山本屋　甚左衛門
手代　塚本惣左衛門
下役小沢金右衛門
相国寺
膽
一、長老　宿　竹屋　五左衛門
手代　鈴木久弥
下役　武井磯八
p21
一、下行渡場　宿　門左衛門
手代　會田定七
野崎佐四郎
斉藤惣八郎
下役　佐藤十郎左衛門
小俣丈七
二見庄七
舟橋次郎左衛門
宮代孫兵衛
足軽五人
一、火之番　手代
伊東半蔵
足軽弐人
一、迎送　手代
塚本籐左衛門
出縄金右衛門
下役　原田九兵衛
安西彦三郎
足軽弐人
p22

酒匂川土橋　手代　吉田仲右衛門
下役　師岡喜惣治
馬入川船橋　手代　赤沼斧右衛門
久木仙右衛門
下役　杉山傳五右衛門
熊沢文治
足軽四人
御馳走方
脇坂淡路守　宿　南町　地福寺
渡邉半十郎　宿　下町　船橋　次郎右衛門
御賄所　南町　長崎屋　勘右衛門
会所　共詰所　會田定七
玉木嘉内
小沢高蔵
磯野常七
棚橋外市郎
市川郡兵衛
p23
栗林政蔵
小出丹蔵
野崎左四郎
濱名兵七　宿　丁子谷　孫兵衛
黒沼秀蔵
合　手代廿三人
下役三拾六人
足軽拾三人
天龍寺
芳長老壱人
此銀七匁五歩　但壱包
弟子五人
此の銀拾弐匁五歩
伴僧七人
此銀拾七匁五歩　但し壱人前弐匁五歩ツツ
包
小姓侍九人
此銀拾七匁五歩　但し壱人前同断、七包
下部拾七人

此銀廿五匁五歩　但し壱人ニ付壱匁五歩ツ
十七包
少以　八拾五匁五歩　三拾九包
p24
相国寺
膳長老壱人
此の銀七匁五歩　但し壱包
弟子五人
此の銀壱弐匁五歩　但し壱人前弐匁五歩
ツツ五包
伴僧弐人
此の銀五匁　但し壱人同断弐包
小姓侍九人
此の銀廿弐匁五歩　但し壱人同断、九包
下部拾七人
此の銀廿弐匁五歩　但し壱人壱匁五歩ツ
ツ十七包
小以　七拾三匁　三拾四包
合　銀百五拾八匁五歩
人数上下七拾三人
右ハ朝鮮人来艘ニ付相
模国大磯宿二月十四日昼
休下行銀書面之通相
渡申候仍テ如件
宝暦十四申二月十四日　渡邊半十郎　印

p25
芳長老
今井善忠殿
膳長老
宇佐美縫左衛門
右之通長老方御着之節
出役手代ゟ相渡直請取
書取置申候、尤先様ニテ
昼食御遣御賄方ゟハ
仕出無御座候、御馳走方
ゟ弐人手代壱人下役弐
人相詰一通之挨拶致
申候、尤受取文言右ニ準シ
申候
p26
二汁七菜
中官　御料理献立
小童
鱠　平目　木くらけ　汁　つみ入ほら
大こん　くり　つくいも
人しん　せうか　椎茸　ねき
きんかん
香物　奈良漬瓜　味噌漬大根
濃醤（コク）　鶏　食
くわい
木くらけ
p27
二
煮物　伊勢海老　汁　すまし
つついも　すすき
松茸　ゆ
玉子
干せんまい
和物　れんこん
にんしん
引テ
焼物　甘鯛
重引　桜煮　たこ
菓子　釘打ヘギ　まんちう　一ツ
うつら焼　一ツ
ようかん　一切
セんし茶
p28
一汁五菜
下官御料理献立
鱠　いなた　大こん　汁　つみ入ほら
にんしん　せうか　つついも
きんかん　椎茸　ねき
香物　奈良漬瓜
煮物　伊勢海老　食
鶏　干せんまい
松たけ
つついも
引テ
和物　人しん
焼物　ほうほう
もちへキ
菓子　まんちう
セんし茶

p29
二汁五菜
通詞御料理献立

鱠　平目　大こん　汁　つみ入ほら
人しん　セうか　つついも
木くらけ　きんかん　な
椎茸　ねき

香物　食
奈良漬瓜　味噌漬大根

二
煮物　玉子　牛蒡　汁　すまし
松茸　干せんまい　すすき
つついも　ゆ
和物　れんこん　にんしん

引テ
焼物　ほうほう

酒

p30
肴　青あ[へ]　ぶり

釘打ヘキ　まんちう　一ツ
菓子　うつら焼　二ツ

セんし茶

一汁四菜
通詞下々御料理献立

鱠　いなた　大こん　汁　つミ入ほら
にんしん　くり　つついも
セうか　きんかん　牛蒡　ねき
な

香物　味噌漬大根

煮物　うなき　食
松茸　つついも
こほう　干セんまい

p31
焼物　ほうほう
セんし茶

中官以下諸道具渡方覚
中官四拾五人　笹尾　善左衛門
此道具
一、本二膳四拾五人前
一、中飯器四拾五人前
一、同二ノ碗四拾五人前　蓋共
一、坪皿四拾五人前　無蓋

p32
一、平皿四拾五人前
一、焼物皿四拾五人前
一、大猪口四拾五人前
一、鱠皿四拾五人前
一、手塩皿四拾五人前
一、茶碗十六
一、大砂鉢　三ツ
一、黒塗り飯次六ツ
一、同湯次　六ツ
一、同丸盆拾弐枚
一、同平茶臺三ツ
一、日光七ツ鉢　壱組
一、五ツ組引鉢　弐組
一、白米壱斗三升五合　但し三割減
一、茶百三拾五匁
一、薪五十弐束

中官五拾人　藤屋　四郎右衛門
此道具

p33
一、本二膳　五拾人前
一、中飯器五拾人前
一、二ノ碗五拾人前　蓋共
一、坪皿五拾人前　無蓋
一、平皿五拾人前　同断
一、焼物皿五拾人前
一、大猪口五拾人前
一、鱠皿五拾人前
一、手塩皿五拾人前
一、茶碗　十八
一、大砂鉢　三ツ
一、黒塗飯次　六ツ
一、同　湯次　六ツ
一、同　丸盆　拾弐枚
一、同　平茶臺　三ツ
一、日光七ツ鉢　壱組
一、五ツ組挽鉢弐組
一、白米壱斗五升　但し三割減
一、茶　百五拾匁
一、薪　五拾八束

p34

中官三拾三人　宮代屋　安右衛門
小童拾六人
一、本二膳　四拾九人前
一、中飯器　四拾九人前
一、二ノ碗　四拾九人前
一、坪皿　四拾九人前
一、平皿　四拾九人前
一、焼物皿　四拾九人前
一、大猪口　四拾九人前
一、鱠皿　四拾九人前
一、手塩皿　四拾九人前
一、茶碗　十八
一、大砂鉢　四ツ
一、黒塗飯次　十
一、同　湯次　十
一、同　丸盆　廿三枚
一、同　平茶臺　三ツ
一、日光七ツ鉢　弐組
一、五ツ組挽鉢　弐組
p35
一、白米九升五合　但し三割減
一、茶　九十九匁
一、薪　五十七束

通詞　拾六人　紀伊国屋　小兵衛
下三拾弐人
一、本二膳　拾六人前
一、黒塗り本碗拾六人前
一、二ノ碗　十六人前
一、平皿　拾六人前
一、鱠皿　拾六人前
一、同　拾六人前是ハ焼物皿ニ用
一、大猪口　拾六人前
一、手塩皿　拾六人前　是ハ瀬戸物盃を用
一、茶碗　八ツ
一、大砂鉢　弐ツ
一、黒塗飯次　四ツ　杓子共
一、同　湯次　四ツ
一、同　丸盆　八枚
一、同　平茶臺　八ツ
一、日光七ツ鉢　壱組
p36
一、五ツ組挽鉢　壱組
一、中朱引盃　十六
一、朱蓋間鍋　三ツ
一、中皿　十七
一、白米　壱斗四升四合　一、酒壱斗弐升八合
一、茶　百四十四匁　一、薪四十八束
〆

下々之分
一、次日光膳　三拾弐人前
一、青漆碗　三十弐人前
一、平皿　三十弐人前
一、鱠皿　三十弐人前
一、同　三十弐人前　是ハ焼物皿ニ用
一、手塩皿　三十弐　是ハ焼物盃を用
一、茶碗　十六
一、春敷飯次　三ツ　杓子共
一、同　湯次　三ツ
一、塗片木挽　四枚
一、鉄　間鍋　五ツ
〆
p38
通詞拾四人　布袋屋　沢右衛門
下廿八人

通詞拾五人　車屋　小左衛門
下三拾人

右同断故記不申候

白米酒茶渡方覚

p38
朝鮮人相州大磯宿二月
十四日昼休姓名書
正使
通政大夫吏曹
参議知製教趙
曮
p39
副使
通訓大夫行弘文館
典翰知製教兼経
筵侍読官春秋館
編修官李仁培
従事官
通訓大夫行弘文

館校理知製教
兼経筵侍官春秋
館記注官金相翊

一行人数四百八拾人

p40

正使道下處
副使道下處　　**三使道居間**
従事道下處

上々官　上判事　学士
書記　良醫　醫員
次上判事　押物判事　写字官
画員　軍官　次官　中官
下官

右何も下処を可認也

三使軍儀安頓処　　**先道具置処**
三使道轎子安頓処　　**輿置処**
国書奉安処　　**国書置処**

p41

正使伴人廳　側仕之者詰所
副使伴人廳　同断
従事伴人廳　同断
三使道厨房所　料理所
三使道行李安頓所　荷物置所

上々官以上荷物置所何も
行李安頓所ト可認也

一、二月十四日大磯宿昼休一行
之次第覚之事

三使并上々官上官中官下官
宿入之節大通詞両長老
本役ゟ先江入、夫ゟ追々
官人先江入跡ゟ三使之
内正使之先江左右ニ並ひ
クリケンニテ跡ゟ副使従　？

p42

事こしニテ官人ハ上馬
中馬下馬ニテ入申候、三使
御本陣江着之節御馳走方
淡路守様并御賄御代官
玄関わきニ御詰、正使副使
之中江宗対馬守様御
案内、夫ゟ通詞追々入
申候、御馳走方御代官本陣
ニテ通詞江一通之御挨拶
被成通詞ゟ右之趣三
使江被申刻上々様江之
御挨拶一通跡ゟ御馳走
御賄御料理等之御礼通詞
を以又々被申候、相済テ
御馳走方并御代官宗
対馬守様江御見廻被成候テ
遠路是迄無滞御着被成
候趣取次方へ被仰置候
尤対州様御宿入之節ハ町
中惣下座三使出立之
次役人之内壱人鉄砲
御本陣前ニテ二三度打
申候、夫ゟこし本陣之
玄関江入三使玄関迄被

p43

出こし入門迄こしを
下ケ惣官人下座いたし
通行被成候、御馳走方ゟ
三使御居間江惣金屏風
其上幕打廻し玄関
ドン子之幕打、中ヲ糸
ニテ釣上置申候、右之外
長老通詞宿迄銘々
幕打申候
一、番所御本陣向へ幕打
鉄砲鍵ならべ飾り立申候
宿々江硯箱紙手掛懸
手掛共雪隠之草履
たはこ盆茶其外まん
ちう抔御出被成候
一、対州役人江官人宿絵
図出役姓名帳、番所へ
相詰候名書人数等
差出申候
一、同人江献立書差出候事
一、三使休息之間数、茶屋

之間数飾物けいこ之

＊（1ページ漏れの可能性あり？）

p44

一、御代官三使宿江御詰被成候
節御紋付麻上下ニテ
御詰被成候、其外手代ハ
袱紗小袖麻上下、下役ハ
袴羽織ニテ相詰申候事
一、上座ニ正使中ノ座ニ副使
次之間従事夫々上々官
段々小童迄居間入口ニ
真ニテ致下札（礼？）尤御馳走
方ゟ被成候
一、上段之間ニ書翰ヲこしゟ出シ
白木之机之上ニ置屏風
ニテ固メ置候
一、三使こし之寸法大こし四尺
幅三尺九寸高サ三尺九寸
棒之長サ二間半尤黒塗
一、火消も御馳走方ゟ昼夜
四度ツツ町中被見廻候

p45

一、酒匂川土橋之儀ハ小田原領主
御入用ニテ渡邉半十郎御懸り
ニテ致目論見候故出来方
等御注進被成候テ折々御見分
被成候事
一、馬入川船橋公義御入用ニテ
御代官御懸被仰付候、矢来
仮番所船数六十八艘
ニテ土橋懸渡申候、手代
赤沼斧右衛門、久木作右衛門
相詰御普請相仕立申候
尤絵図ハ別段書申候
一、当宿ニテ惣官人江諸道具貸
之儀無之尤外ニ相好候品も
無御座候、御代官御勤方之儀
対馬守殿着前三使宿
詰所へ罷越居三使到着
後玄関江罷出候所対州
信使奉行罷出候ニ付
三使無怠到着之趣口上
申達、夫ゟ対馬守殿之
旅宿へ見廻遠路無滞
当駅御着之段口上申

p46

詰所へ引取申候事、夫ゟ
御代官馬入川船橋場所へ
為御見届被罷越候事
一、御馳走方ゟ留守居大目
付家老被相詰申候
船橋通行見届候上
御代官御馳走方ともニ
御注進飛脚被立候事

従朝鮮国摂州大坂迄
海上道法弐百五十五里　＊1020km
従大坂武州江戸宿
迄道法百四十二里半　＊570km
合三百九十五里半程　＊1582km

（了）

青葉区古文書の会
割石洋策　翻刻ス
2018　Jan　04